

だい きやまとしたぶんかきょうせいかいぎ だい かいがいぎろく ようやく
第3期大和市多文化共生会議 第8回会議録(要約)

にちじ ねん がつ にち にち
日時: 2013年10月19日(日) 14:00 ~ 16:20

ばしょ やまとし やくしよぶんちようしゃ かいがいぎしつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき いいん あらいまさのり いしま いとうもとみ いなふく おかざき
出席: 委員(新井政則、石間フロルデリサ、伊藤素美、稲福スーザン、岡崎チャ

メイン、小林ホルヘ、宮嶋耕治) / ファシリテーター 清水睦美 / 大和市国

さい だんじょきょうどうさんかく か ふなこしえい いち こうえきざいだんほうじんやまとしこくさいかきょうかい たなか
際・男女共同参画課 船越英一 / 公益財団法人大和市国際化協会(田中

ひろこ いしかわかずとも いじょう めい
弘子、石川和友) 以上11名

けっせき いいん いとうひろこ きくちけんいち こんのまさる やまだちよん あ けいしやう
欠席: 委員(伊藤裕子、菊池健一、紺野勝、ファン チィ フォン、山田静娥)(敬称
略)

ほうじんざいにち きょうかい ほうこく
1 NPO法人在日ラオス協会へのフィールドワーク報告

じむきょく ぜんかいおこな ほうこく
事務局から前回行ったフィールドワークについて報告した。

ひなんじょうんえい
2 避難所運営ゲーム「HUG(ハグ)」

わ ひなんじょうんえい おこな あとさんかしゃ
2グループに分かれて、避難所運営ゲーム「HUG」を行った。ゲームの後、参加者から
それぞれ感じたことを中心に意見交換を行った。

(グループA)

いいん にほん とく うんえい ほんぶ いけん くろう ほん
委員(日本): たいへんでした。特に(運営)本部の意見をまとめることに苦労した。本
部の意見がまとまっていなければ、避難所にくる市民をうまく誘導できないと感じた。

いいん ひなんじょう いりくち あんない ひと やくわり おお おも あんない
委員(フィリピン): 避難所の入口で案内する人の役割がすごく大きいと思った。案内す
る人は避難所のノウハウを分かっている人である必要を感じた。なぜかという、病気
や障がいなど何らかの事情を抱えた人が、次から次へと避難してくるから。ノウハウが
あれば、受け入れがスムーズに進む。避難する人は多いので、受け入れを後回しに
することはむずかしい。

いいん さいしよ き だいじ き たとこ
委員(ペルー): 最初からルールを決めることが大事。決めておかないと、例えば子
もの受け入れの判断など、対応する人によって変わってきてしまう。また、手伝って
れそうな人にはすぐに仕事を与えた方がいいと思った。

いいん にほん そしき じゅうようせい じゅうきょう ていど
委員(日本): 組織の(コントロールの)重要性。どんな状況になってもある程度のル
ールをみんなで共有して、コントロールすることが大事だと思った。情報の整理と活
用。受付の段階で何を確認するべきか、運営スタッフが把握しておく。プライオリテ

イ(優先順位)。いろいろな問題が起きる中で優先順位が高いものから対応していくことが大切。その優先順位を決めておく必要を感じた。以上、この3つを強く感じた。

(グループB)

委員(フィリピン):いろいろな方が避難してきて、みんなお願いばかりする。運営する人たちが一つにならないといけない。避難する人は、最低限それぞれ自分の場所が確保できれば、それでいいと思う。むずかしく考えなくてもいい。

委員(日本):リーダーシップをとることがたいへん。それぞれ個人の状況を把握して、的確に配置させていくことはむずかしい。最初に通路を決めて、次々配置していく方法がいいかと思った。例えば、病気の人が、お年寄りなどケアを必要とする方に対しては、約束事を決めておく必要があると感じた。

ファシリテーター:元気な人をどう活用するか、これがポイントになる。30代の夫婦が来たとき、若いから働いてもらおうと思って、子どもの近くに配置した。確かにお願いする人ばかりだが、例えば、若い夫婦など支援できそうな人がポイントになった。他にも40代夫婦と10代の子どもの3人家族の近くに親がいない子どもを配置してみるなどした。お願いする人はたくさんいるのだけれど、元気で働ける人たちの活用の仕方が重要になるのだと思った。

(その他)

大和市:以前、HUGゲームをしたとき、盲導犬を連れた人について、犬アレルギーがある人にはどう配慮すればいいのか、という話が出た。それまでは、盲導犬は人間と同じように扱うべきだと考えていたので、アレルギーのことまで考えるのはたいへんなことと思う。最低限のことはやるだけでいいという意見もあったが、いざ事情を抱えた人を目の前にすると、何かしら対応していかないといけない気持ちになるのではないかとと思う。

事務局:避難所に遺体が運び込まれた場合、どうするか?例えば、亡くなった赤ちゃんを連れた母親が避難してくることが考えられる。

委員(日本):赤ちゃんのケースはやむを得ないかもしれないが、一般の人だとむずかしいのではないだろうか。

大和市:今回のケースは、まだ他からの支援がなく、地元の人だけで避難所を運営していくという設定。避難所の運営ノウハウという意味では、日頃からの訓練、あるいは事前の想定がないとパニックになってしまう。例えば、トイレについて、水がない状況で

は、たまっていく一方なので、他の手段が必要になる。場所にしても、近くに設置すれば便利だが、近く過ぎると臭うという問題が出てくる。トイレは一例に過ぎないが、皆さんからポイントとなる意見がたくさん出たように、今回はゲームを通じて様々なシュミレーションをすることができたと思う。

以上